

# 大磯町における全国学力・学習状況調査結果の報告

平成 26 年 11 月 4 日

大磯町「全国学力・学習状況調査」結果分析・活用検討委員会

## 「教科に関する調査」結果の分析及び活用について

### 【小学校国語】

#### 国語 A 「知識」に関する調査

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では、漢字の読みについては概ね良好であるが、書くことについては一部に課題がある。同音異義語や類似した字形などと比較しながら、間違いやすいところを特に注意して指導するとともに、日常的に正しい書き方を確認するような習慣付けが必要である。また、故事成語の意味や使い方の理解について課題がある。今回の調査では選択式の問題形式の問いで、記述式よりも正答率は高くなると予想されるにもかかわらず、約半数が正答以外の選択肢を選んでおり、さらなる指導の充実が求められる。故事成語のみならず、ことわざや慣用句についても、言語活動と関連させて計画的に指導するとともに、実生活の中で意図的にこれらに触れさせる機会を設けることも重要である。また、言葉の意味と使い方を理解し語彙を増やすため、辞典を使って言葉の意味や使い方などを調べる習慣を付けられるように、いつでも辞書を手にとることができるような環境を整えておくことが望ましい。

「書くこと」の領域においては、文章の構成を理解し、適切な表現にして書くことについては、概ね良好であるが、情景描写の効果を捉えることに課題が残る。指導に当たっては、物語などを読むこととの関連を図り、描写の工夫のモデルを示してその効果について気付かせ、文章を書く時にその工夫を取り入れさせるような方法が考えられる。

「読むこと」の領域では、物語の登場人物の相互関係を読み取ることにさらに向上させる余地がある。文学的な文章を読み味わう時には、まず登場人物の人物像や関係性を捉えることが重要である。そのためには、登場人物の行動や会話、情景描写などを手掛かりにそれぞれの人物像を捉え、その相互関係を、図などを使って整理する方法を指導に取り入れることが有効と思われる。

## 【小学校国語】

### 国語B「活用」に関する調査

「話すこと・聞くこと」の領域で、目的や意図に応じて計画的に討論することについては過去の調査でも課題が指摘されていたが、依然課題が見られる。特に、自分の立場を明確にして質問や意見を述べることに指導の充実が求められる。実際に具体的な話し合いの場面を設定して、話し手の意図を捉えるために主体的に聴く姿勢を身に付させ、司会の役割を意識させながら学ばせるような指導を学年の発達段階に応じて計画的に行っていくことが必要である。また、国語以外の教科や学級活動にも話し合い活動を取り入れて、国語で学習したことを活用する場を設定し、要点や疑問点などをメモしながら相手の発言を聞くことや、発言の内容を図表に整理する方法などの具体的な手法を指導することも有効と考えられる。

「書くこと」を観点とした設問の正答率は高くないが、児童質問紙の回答からは「感想文や説明文を書くこと」について抵抗感を持っている児童が非常に多いとは読み取れないので、記述の際のモデルを提示することや、構成や記述について条件を示すなどの丁寧な支援が書くことのスキルアップの手段の一つとして効果的である。

国語Bの設問は「読むこと」を評価の観点としたものが多く、全体的に文章を読み取る力が必要とされる内容である。読むことには、物語や小説・詩など創作されたものを味わう読み方と、必要な情報を収集するための読み方があるが、詩の解釈の着眼点の違いを捉えることに課題がある。自分と他の人の意見を比較しながら共通点や相違点を整理できるような指導が必要である。また、課題解決のために目次や索引を利用して効果的に読むことについても、調べ学習を行う際に、関連する様々な本や文章を、見通しを持って効率よく探せるように、発達段階に応じた指導が必要である。

国語Bでは全体的に無解答率が高く、設問が後半に向かうにつれ無解答率が上昇している。児童質問紙において「国語の文章で答える問題に最後まで解答を書こうと努力した」とかなりの児童が回答しているにもかかわらず、後半の設問への無解答率が高くなっているのは、同じく児童質問紙において「調査問題の解答時間がやや足りなかった・全く足りなかった」という回答がかなり多いことと関係があると思われる。ある程度の長さの文章を読み、要旨を端的に捉える力と、自分の考えを文章にまとめる力を同時に付けられるような指導方法の工夫が必要である。

## 【中学校国語】

### 国語A「知識」に関する調査

調査結果から基礎的・基本的な知識・技能の定着はかなり図られていることが読み取れる。また、全体的に無解答率が低いことから、調査問題へ真摯に取り組もうとしている姿がうかがえる。

「話すこと・聞くこと」の領域では、必要に応じて質問し、相手から足りない情報を引き出すことはかなりできている。これは、相手の発言を注意深く聞く姿勢ができているということの表れであろう。一方、目的や状況に応じて、資料などを効果的に使用して話すことについてはさらに向上させる余地がある。報告や説明をする際、文字や図表などの視覚的な資料を活用することの有用性に気付かせ、国語以外の教科や、総合的な学習、特別活動など様々な教育活動において、情報機器を使って資料の作成や提示をする機会を設定することが効果的である。また、昨年度の調査でも指摘されていたが、話し合いの場面で、互いの発言を検討して共通点や相違点を整理し、目的に沿って議論して結論を導き出していくことについて依然として課題が残る。相手の発言を要点や疑問点などをメモしながら聞くことや、発言の内容を図表に整理する方法などを学習活動に取り入れるとともに、全ての教員が、国語における指導内容の共通理解を図り、話し合いの見通しを持ったり、話し合いの進行が適切であるかを振り返ったりする機会を、中学校の3年間を通じ教科・領域を越えて繰り返し経験させることが有効と考えられる。

「読むこと」の領域については、物語や小説の登場人物の言動や話の展開に注意して読み、内容を理解することを相当数の生徒ができている。また、論説文において文章全体と部分の関係や、抽象的な概念を表す語句が示す事柄について読み取ることもかなりできている。

「書くこと」の領域については、心情が相手に伝わるように、描写を工夫して書き加えたり、ふさわしい言葉に書き換えたりすることについて相当数の生徒ができている。「書くこと」については、物語などの創作において、直接的な表現を比喻や情景描写に書き換えるなどより豊かな表現方法の指導へと深めることができる。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では、文脈に即して漢字を正しく読むことに関して相当数の生徒ができている。しかし、文脈に即して漢字を正しく書くことについては一部に課題があり、無解答率も他の問いに比べると高くなっている。字形が似ている漢字について、読みや意味などの基本的な事項を確実に指導する必要がある。ことわざや慣用句、敬語については、概ね良好である。今後も実際に会話や文章のなかでこれらを意図的に使わせ、慣れさせる指導を継続していきたい。

## 【中学校国語】

### 国語B「活用」に関する調査

国語B「活用」に関する調査では、国語Aと同じく全体的に無解答率が低く、短答式・記述式の間いであっても答えようと努力する姿勢がみられる。これは生徒質問紙において、記述式の問題について「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合が高いことと呼応する。

「書くこと」の領域では、根拠を明らかにして自分の考えを書いたりすることや資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことに課題がある。「書くこと」に関する言語活動に取り組ませる際には、得た情報を正しく理解しているかや、伝えたい内容を正確かつ分かりやすく述べているかについて留意するよう指導し、書いたものについて観点を決めて意見を述べ合う機会を設定することも必要である。また、根拠として引用した箇所と自分の考えとの関連、根拠として取り上げた内容の妥当性など、書いた文章を複数の観点から見直すように促す指導も大切である。

「読むこと」の領域では、複数の資料を比較して読み、要旨を捉えることや、目的に応じて必要な情報を正確に読み取ることに課題がある。目的のために、複数の資料から必要な情報を効率よく読み取る方法や、1つの資料から他の資料につなげていく読み方を身に付けさせることが重要である。また、文章から必要な情報を読み取る力をさらに付けるために、国語はもとより国語以外の教科や領域でも様々な読み物や資料に触れさせる機会を意図的に作るような学習活動が有効と考えられる。

## 【小学校算数】

### 算数A「知識」に関する調査

「数と計算」領域において、整数・分数の四則計算の理解については概ね良好であった。しかし、小数第1位までの減法と割合が1より大きい（小さい）場合の比較量の求め方については改善の余地がある。小数の減法については、位をそろえて計算することが確実にできるように理解させる必要がある。また、比較量を求める際に乗法が用いられることを理解し、何倍に当たる数が小数の場合でも整数と同じように考えることができることを理解させる必要がある。

「量と測定」領域の理解については概ね良好であった。ただし、単位量当たりの大きさを求める除法の式を立てることについては、課題として捉えられる。既習のわり算の意味と関連付けて、単位量当たりの大きさを求める式を理解できるようにする必要がある。

「図形」領域では、立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係の理解について課題がある。立体図形を見取図や展開図に表すことを通して、辺、面、頂点などの構成要素、辺や面のつながり、位置関係などを理解させる必要がある。

「数量関係」領域では、2つの数量関係を記号を用いて式に表すことについては概ね良くできている。しかし、四則の混合した式の意味についての理解にやや課題がある。生活の中での具体的な場面と式とを結びつけて学習するような工夫が必要である。

## 【小学校算数】

### 算数B「活用」に関する調査

「数と計算」領域では、示された場面から計算の結果の見通しをもつことは相当数の児童ができています。一方、示された計算の決まりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を式や言葉を用いて記述することに課題がある。1つの数を他の数の積としてみる見方など、他の数と関連付けられるような指導が必要である。

「量と測定」領域では、示された場面から基準量と比較量を捉え、何倍かを求めることについては、概ね良くできている。しかし、問題を解決するために、必要な情報を考え、整理し、与えられた複数の条件に合う解答を求めることや示された情報を基に量の大小を判断し、その理由を数学的に表現することについて課題がある。情報を図の中に整理し表してから解決の筋道を立てたり、比較する対象を明確にしてから考察し判断の根拠を説明したりする指導の工夫が大切である。

「図形」領域においては、示された条件を基に図形を構成することにやや課題が残る。解決の途中で、示された条件に合致しているかなどを振り返って考えるなど、自分の判断を適宜見直す活動を授業の中で繰り返し指導していく必要がある。

「数量関係」領域においては、繰り返し出現する事象から規則性を見出し、それを基に解答を求めることや示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を言葉や式を用いて記述することに課題がある。比較対象となる2つの数量を示すことの必要性に気付かせることや、問題解決に用いる情報を書き、それらを組み合わせることで解決の道筋を明確にするような指導が求められる。

算数Bについては、総じて無解答率が全国と比べて高い傾向がある。一見難しい問題に対しても、基礎的な知識を基に、粘り強く解答を求めていく態度を授業の中でも育てていく必要がある。

## 【中学校数学】

### 数学A「知識」に関する調査

「数と式」領域では、数量を文字式で表すことについては、ほとんどの生徒が理解できている。しかし、数量の大小関係を不等式に表したり、分数を含む一元一次方程式を解いたりすることについてはやや課題が残る。不等式については、比べる数量に着目し、数や文字を用いた式で表し、不等号を用いて大小関係を適切に表すことができるように指導していくことが必要である。一次方程式については、解く過程や結果を確かめる活動を取り入れる指導が必要となる。

「図形」領域においては、多くの設問で県や全国の正答率を上回っているが、図形の回転移動について、移動前後の2つの図形の辺や角の対応を読み取ったり、多角形の内角の和を表す式の意味を理解したりすることに課題がある。図形の回転移動では、ある図形が決まりに従って移動していることを視覚的に捉えさせたり、図形の移動の性質を見出す場面を設定したりする指導の工夫が求められる。多角形の内角の和を表す式の意味を理解させるためには、具体的な多角形の内角の和を求める中で帰納的に調べて決まりを見出すなどの指導をさらに徹底させることが必要である。

「関数」領域では、反比例の意味を理解することについては概ね良くできているが、関数の意味の理解について改善の余地がある。日常的な事象の中にある2つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見出す活動を取り入れることで、関数の意味について理解が高まるのではないかと考えられる。

「資料の活用」領域においては、度数分布表から相対度数を求めたり、ヒストグラムにおいて中央値の意味を理解したりすることに課題が残った。相対度数の必要性と意味についての理解を深めるために、ある階級の度数の総度数に対する割合を求めて、資料の傾向を読み取る活動を取り入れるなどの指導の工夫が必要である。また、ヒストグラムや代表値の意味を理解するために、実際のデータを収集して整理し、それぞれの値の意味を捉える場面を設定するなどの指導が考えられる。

全体として県や全国の平均正答率を上回っているが、その中でも課題となっている部分を整理し、町として共有しながら、今後の指導改善に繋げていきたい。

## 【中学校数学】

### 数学B「活用」に関する調査

「数と式」領域では、予想された事柄が成り立たないことを判断し、その事柄が成り立たない理由を説明することに課題があった。問題に対して話し合う活動や、具体例を用いて考察する場面の設定、根拠や反例を用いながら説明するなど、工夫した学習活動が求められる。

「図形」領域では、日常的な事象を表した図を観察し、空間における位置に関する情報を適切に読み取ることについては、ほとんどの生徒が理解できている。一方、付加された条件下で、証明を振り返って考え、事柄を用いることに課題がある。図を条件に合うようにかき直すとともに、証明の過程で見出した事柄や証明された事柄に着目し、新たな性質を見出すことができるか考える場面を設定するなどの指導の充実が求められる。

「関数」領域では、与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることについてはほとんどの生徒が理解できているが、グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を説明することについては課題がある。表や式、グラフなどの用いるものとその使い方について説明する場面を設定しながら問題を解決していくような指導が必要である。

「資料の活用」領域においては、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することについて課題がある。設問のようなゲームを実際に試行するなどして理解した後、データを収集した中で起こりうる事象を整理するために確率を用いることが適切であると生徒が実感するような指導の工夫が考えられる。

数学Bについても、全体として県や全国の平均正答率を上回っているものの、与えられた情報を基に説明することについては改善の余地がある。指導の中で、解答について取り上げるだけでなく、なぜそうなったのかなどの過程に関して、説明したり、話し合ったり、表や式を用いて文章に表したりする活動を取り入れていく必要がある。

## 「質問紙に関する調査」結果の分析及び活用について

### 【小学校】

「友達との約束を守っている」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と回答した児童が非常に多い。また、平成 25 年度調査と同様に「朝食を毎日食べている」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「人の気持ちが分かる人間になりたい」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童の割合も非常に高い。

「学校のきまりを守っている」と回答した児童の割合は、平成 25 年度調査で改善傾向が見られたが、本年度調査では全国の調査結果と比較すると依然として課題が残る。規範意識を高めるための指導を、教職員の共通理解の下に継続的に進める必要がある。

また、教科に関する調査との関連では、「調査問題の解答時間が全く足りなかった」あるいは「やや足りなかった」とする児童の割合が、全国の調査結果と比較して高い。日常の教科指導において、教科に関する調査を参考とした学習課題の設定を意識していく必要がある。

一方、平成 25 年度調査で「学校の授業時間以外の勉強時間が 30 分未満」と回答した児童の割合がやや高かったが、本年度調査では「30 分以上」と回答した児童の割合が増加している。家庭での学習時間と平均正答率には相関があり、引き続き家庭と連携を密にして、家庭学習について適切な指導を行うようにすることが大切である。

### 【中学校】

「朝食を毎日食べている」「友達との約束を守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した生徒の割合が高いのは小学校と同様である。「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「人の気持ちが分かる人間になりたい」と回答した生徒の割合も非常に高く、平成 25 年度調査よりもさらに増えている。

「学校の規則を守っている」と回答した生徒について、平成 21 年度調査ではその割合がやや低かったが、平成 25 年度調査で改善が見られ、本年度調査ではさらに改善されてきている。

普段の授業について「自分の考えを発表する機会が与えられていると思う」「生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う」と回答した生徒の割合は、平成 21 年度調査と比べると、昨年度と同様に高くなっていることから、授業改善が進み、定着してきていることがうかがえる。また、そのように回答している生徒の平均正答率は、そうではない生徒と比べて高い傾向があるため、引き続き組織的に授業改善に取り組むことが期待される。

今回の調査では、国語・数学の記述式問題に「最後まで解答を書こうと努力した」という生徒の割合がさらに高くなっており、平均正答率と強い相関があった。

さらに、「学校の授業時間以外」の学習時間について、「2 時間以上」と回答した生徒の割合は、全国と比べて高かった。昨年度と同様に「1 時間」を境に平均正答率に差が見られることや、「家で、自分で計画を立てて勉強している」と回答した生徒について平均正答率との相関があることから、今後も家庭での勉強の仕方を適切に指導する必要がある。

※「質問紙に関する調査」の結果については、学習と平均正答率に関する事項に重点をおいてまとめを行った。